

# ダイワFEグローバル・バリュー (為替ヘッジあり/為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/資産複合

ファースト・イーグル社の、優れた運用実績と、一貫した投資哲学によるパフォーマンスに注目

## ■三菱UFJ銀行からのご留意事項

◎当ファンドは預金ではなく、三菱UFJ銀行は元本を保証しておりません。また、預金保険制度の対象ではありません。◎投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動リスク等があり、お受取金額が投資元本を大きく下回ることがあります。したがって投資元本および運用成果が保証されているものではありません。◎ご購入に際しては、購入時手数料(ご購入代金に応じて上限3.30%(税込))および保有期間中の運用管理費用(信託報酬)等の費用がかかります。◎ご購入に際しては、必ず最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」により商品内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。◎当ファンドをお取引いただくか否かが、三菱UFJ銀行におけるお客さまのほかの取引に影響を与えることはありません。◎当ファンドの購入代金に充当するための借入れを前提とした購入申込みはお受けできません。

【金融商品仲介口座を通じたご購入について】

●当ファンドは三菱UFJ銀行の投資信託口座のほかに金融商品仲介口座(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座)を通じたお取扱いをしております。●金融商品仲介口座を通じたご購入に際しては、あらかじめ三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座の開設が必要です(金融商品仲介口座の開設をお申込みいただくと、お取引口座は三菱UFJモルガン・スタンレー証券に開設されます)。

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。投資信託説明書(交付目論見書)は、三菱UFJ銀行の本・支店までご請求ください。

### 投資信託口座を通じたお取扱いの場合

お申込み・販売会社は



三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行

登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号

加入協会：日本証券業協会/一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当行の苦情処理措置および紛争解決措置は

一般社団法人 全国銀行協会または特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センターを利用します。

全国銀行協会相談室：0570-017109/03-5252-3772

証券・金融商品あっせん相談センター：0120-64-5005

受付時間：月～金曜日/9:00～17:00(祝日・12/31～1/3等を除く)

### 金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合

お問合せ・ご照会は



三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行

登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号

加入協会：日本証券業協会/一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

委託金融商品取引業者・販売会社は

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号

加入協会：日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人金融先物取引業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は

大和アセットマネジメント

Daiva Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

# 長期にわたり優れた実績を持つファース

割安と判断される世界の株式等に投資  
資産の保全を目的として“金”にも投資

## 200年を超えるファースト・イーグル社の歴史



## ファースト・イーグル・インベストメント・マネージメントに

- 米国で長期にわたり優れた運用実績を有するファースト・イーグル社のグローバル・バリュー・チームがマスターファンドの運用を行ないます。
- グローバル・バリュー・チームは「バリュー投資」と「資産の保全」という投資哲学を徹底するために、時には親会社と対立しながらもその歴史を築いてきました。

### ファースト・イーグル社の運用資産残高

約1,009億米ドル(約10.9兆円)

うち、グローバル・バリュー・チームによる運用は  
約834億米ドル(約9.0兆円)



※運用資産残高は、2020年5月末現在の為替レートを使用。※運用資産残高、グローバル・バリュー・チームのご紹介は、2020年5月末現在のものです。  
※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

# ト・イーグル社が運用

社名をファースト・イーグル・  
インベストメント・マネージメントに変更

2009年

投資銀行部門を売却し、  
運用専業となる

2002年

“ファースト・イーグル”  
シリーズ運用開始

2000年

ソシエテ・ジェネラルより  
グローバル・バリュー・チームを買収

## グローバル・バリュー・チームの歴史

1979年

ソシエテ・ジェネラルにおいてジャン・マリー・エベヤール氏  
を中心とした**グローバル・バリュー・チーム**が発足

現在シニア・アドバイザーであるジャン・マリー・エベヤール氏は、米国の著名な投資家である**ウォーレン・バフェット氏**、またバフェットの師にもあたる**ベンジャミン・グレアム氏**の運用哲学をバリュー投資の根幹におき、その考えは現在のチームにも深く根付いています。

1990年代末

**運用哲学を守るため**、IT関連株への投資を巡り親会社からの圧力を断固拒否

## ついて

### グローバル・バリュー・チームのご紹介

#### ポートフォリオ・マネージャー

グローバル・バリュー・チーム ヘッド

マシュー・マクレンアン

(Matthew McLennan, CFA, 運用歴:28年)

キンボール・ブルッカー

(Kimball Brooker, Jr., 運用歴:27年)

アソシエイト・ポートフォリオ・マネージャー

マニッシュ・グプタ

(Manish Gupta, 運用歴:14年)

#### シニア・アドバイザー

ジャン・マリー・エベヤール (Jean-Marie Eveillard, 運用歴:57年)

ブルース・グリーンワルド (Bruce Greenwald, 運用歴:39年)

タノ・サントス (Tano Santos, 運用歴:23年)

#### リサーチ・チーム

総勢17名のアナリストが各産業セクターを  
カバーしています。

※ウォーレン・バフェット氏、ベンジャミン・グレアム氏は当ファンドの運用に関係するものではありません。

(出所) ファースト・イーグル社、ブルームバーグ



# 不確実な時代に輝きを放つ、長期にわたり優れた実績

## ■ 類似運用戦略(米ドルベース)

- ファースト・イーグル社が運用する類似運用戦略は、1979年の運用開始より世界株式(MSCIワールド)に比べ相対的に良好な累積リターンを実現しています。
- 類似運用戦略の年間リターンが、マイナスになった年は41年の中で6回のみ。うち、4回はマイナス幅を1%前後にとどめていることから、逆境下で資産保全に強い運用がうかがえます。
- 大きな損失をできるだけ出さないことが長期で資産を増やすためには重要であるとする投資哲学が忠実に実践されています。

### 累積リターンと運用資産残高の推移



	類似運用戦略	[ご参考]MSCIワールド
リターン(年率)	12.5%	9.3%
リスク(年率)	10.5%	14.9%
リターン/リスク	1.19	0.63

※リスクは計測期間における月次収益率より計算し年率換算しています。

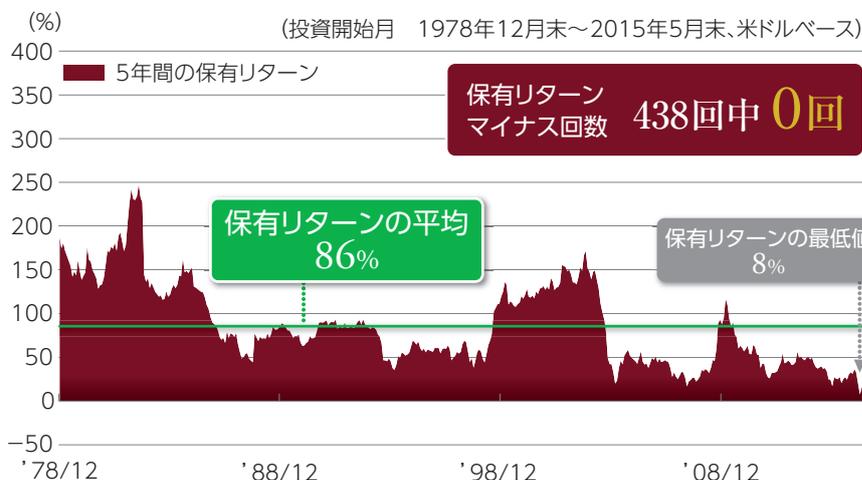
### 年間リターンの推移

	類似運用戦略	[ご参考]MSCIワールド		類似運用戦略	[ご参考]MSCIワールド
1979	24.1%	11.0%	2000	9.7%	-13.2%
1980	31.7%	25.7%	2001	10.2%	-16.8%
1981	8.0%	-4.8%	2002	10.2%	-19.9%
1982	31.6%	9.7%	2003	37.6%	33.1%
1983	24.0%	21.9%	2004	18.4%	14.7%
1984	2.9%	4.7%	2005	14.9%	9.5%
1985	32.7%	40.6%	2006	20.5%	20.1%
1986	25.0%	41.9%	2007	9.9%	9.0%
1987	13.8%	16.2%	2008	-21.1%	-40.7%
1988	14.2%	23.3%	2009	22.9%	30.0%
1989	17.2%	16.6%	2010	17.6%	11.8%
1990	-1.3%	-17.0%	2011	-0.2%	-5.5%
1991	17.9%	18.3%	2012	12.5%	15.8%
1992	8.4%	-5.2%	2013	15.5%	26.7%
1993	26.2%	22.5%	2014	2.9%	4.9%
1994	2.5%	5.1%	2015	-0.9%	-0.9%
1995	15.2%	20.7%	2016	10.7%	7.5%
1996	13.6%	13.5%	2017	13.5%	22.4%
1997	8.5%	15.8%	2018	-8.5%	-8.7%
1998	-0.3%	24.3%	2019	20.2%	27.7%
1999	19.6%	24.9%	2020*	-9.0%	-8.2%

\*2020年は5月末まで

## ■ <ご参考>類似運用戦略に5年間投資した場合のリターン(米ドルベース)

### 類似運用戦略



類似運用戦略は、  
投資リターンの  
投資リターンの平均

※類似運用戦略は、諸費用控除後。MSCIワールドは配当込み、源泉税控除後。※類似運用戦略の運用資産残高は、2020年5月末現在の為替レートを使用。  
 ※5年間投資した場合のリターンについて、例えば、類似運用戦略の'78/12の投資リターンは、1978年12月末から1983年12月末までの5年間投資したと  
 (注)類似運用戦略は、マスターファンド(当ファンドの投資対象ファンドであるファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンドのこと)と同様の  
 類似運用戦略は、あくまでも参考のために掲載したものであり、マスターファンドとは異なります。上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの

# を有するファースト・イーグル社

## ■ 類似運用戦略(円ベース)

- 米ドルベースの類似運用戦略の投資リターンを各月末時点の為替レートで円換算したものです。
- 1978年12月末の米ドルの対円レートは194.3円/米ドルと現在より大幅に米ドル高円安水準であったため、円ベースの類似運用戦略の累積リターンは米ドルベースより低い水準になっています。

### 累積リターンと米ドル円レートの推移



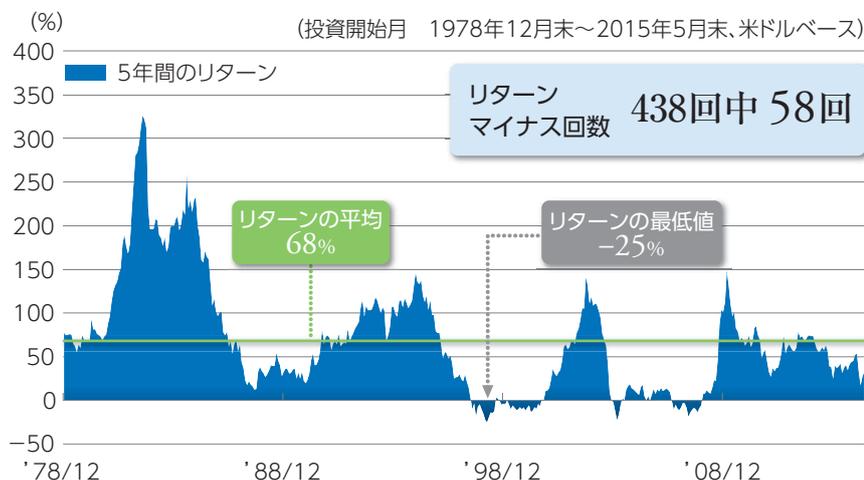
※リスクは計測期間における月次収益率より計算し年率換算しています。

### 年間リターンの推移

	類似運用戦略	[ご参考]MSCIワールド	[ご参考]米ドル円レート		類似運用戦略	[ご参考]MSCIワールド	[ご参考]米ドル円レート
1979	53.5%	37.2%	23.7%	2000	22.5%	-3.1%	11.6%
1980	11.3%	6.2%	-15.5%	2001	26.8%	-4.3%	15.1%
1981	16.9%	3.0%	8.2%	2002	-0.6%	-27.7%	-9.8%
1982	40.5%	17.1%	6.8%	2003	24.3%	20.1%	-9.7%
1983	22.5%	20.4%	-1.3%	2004	13.3%	9.8%	-4.3%
1984	11.7%	13.7%	8.6%	2005	31.8%	25.6%	14.7%
1985	5.6%	11.9%	-20.4%	2006	21.8%	21.4%	1.1%
1986	-1.2%	12.2%	-20.9%	2007	3.1%	2.3%	-6.2%
1987	-12.9%	-11.0%	-23.4%	2008	-35.9%	-51.9%	-18.8%
1988	17.7%	27.2%	3.1%	2009	26.1%	33.3%	2.6%
1989	34.8%	34.1%	15.0%	2010	2.6%	-2.5%	-12.7%
1990	-6.8%	-21.7%	-5.6%	2011	-5.4%	-10.5%	-5.2%
1991	8.5%	8.8%	-8.0%	2012	26.9%	30.7%	12.8%
1992	8.4%	-5.3%	-0.0%	2013	40.2%	53.8%	21.4%
1993	13.0%	9.7%	-10.4%	2014	17.0%	19.3%	13.6%
1994	-8.7%	-6.5%	-11.0%	2015	-0.6%	-0.6%	0.3%
1995	19.8%	25.5%	4.0%	2016	7.8%	4.8%	-2.5%
1996	27.0%	26.8%	11.8%	2017	9.3%	17.9%	-3.7%
1997	22.5%	30.7%	12.9%	2018	-10.9%	-11.1%	-2.7%
1998	-13.2%	8.2%	-13.0%	2019	19.0%	26.4%	-1.0%
1999	7.9%	12.7%	-9.8%	2020*	-9.7%	-8.9%	-0.7%

\*2020年は5月末まで

### [ご参考]MSCIワールド



5年間投資した場合  
マイナス回数は0回、  
は約90%となりました。

※円ベースの累積リターンは各月末時点の為替レートを使用し円換算。※使用した指数については、「当資料で使用した指数について」をご参照ください。仮定したリターン。

運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、運用資産規模や投資制限(マスターファンドでは金現物に投資しない等)、費用などが異なります。将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所)ファースト・イーグル社、ブルームバーグ

# ファンドの目的 | 割安と判断される世界の株式等に

## ファンドの特色

### 1 割安と判断される世界の株式等に投資します。

- 金ETF、債券、転換社債など、株式以外の資産も投資対象とします。

### 2 運用は、ファースト・イーグル・インベストメント・マネージメントが行ないます。

- ケイマン籍の外国投資信託「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」(以下「マスターファンド」といいます。)を通じて運用を行ないます。
- 投資対象ファンドであるマスターファンドにおいて、現地通貨売り/米ドル買いの為替取引を行なうことがあります。

### 3 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのファンドがあります。

<b>為替ヘッジあり</b>	<p>米ドル建てのマスターファンドの組入額に対して、原則として米ドル売り/円買いの為替取引を行なうことにより、米ドルと円の為替変動リスクの低減を図ります。</p> <p>※ただし、米ドルと円の為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。 ※米ドル売り/円買いの為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。 ※米ドル建てのマスターファンドに米ドル建て以外の資産が含まれていることに起因するリスクがあります。くわしくは「投資リスク」をご参照ください。</p>
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<b>為替ヘッジなし</b>	<p>為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p> <p>※基準価額は、為替変動の影響を直接受けます。</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------

- 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」との間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

## ファースト・イーグル社の揺るぎない投資哲学

- 「バリュー投資」
- 長期にわたる優

### 1 バリュー投資

- 株価は、短期的には投資家の心理を反映するが、長期的には、その企業の**本源的価値**を反映する
- 企業の**本源的価値**よりも著しく割安な水準で投資を行ない、株価が**本源的価値**に近づいた段階で売却を行なう

### 2 資産の保全

- 長期的な投資によって資産を増損失を出さないことが重要
- 資産の保全のためには、たとえ自いたとしても、理解のできないも

※上記はファースト・イーグル社の投資哲学であり、当ファンドの元本を保証するものではなく、また将来の成果を示唆・保証するものではありません。

# 投資し、信託財産の成長をめざします。

## ■ ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 外国投資信託の受益証券を通じて、世界の株式等に投資します。外国投資信託について、くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資対象ファンドの概要」をご参照ください。



当ファンドは、通常の状態では、「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色1～3の運用が行なわれないことがあります。

**4** 毎年5月19日および11月19日(休業日の場合、翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

## ■ 分配方針

- 1 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等とします。
- 2 原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

と「資産の保全」を投資哲学の核として掲げ、長期にわたり信託財産の成長を追求しています。  
れた運用実績は、「バリュー投資」「資産の保全」という投資哲学を一貫して実践してきた成果です。

やすためには、大きな

分以外の全員が投資して  
のへの投資をしない

**長期的に信託財産の  
成長を追求**

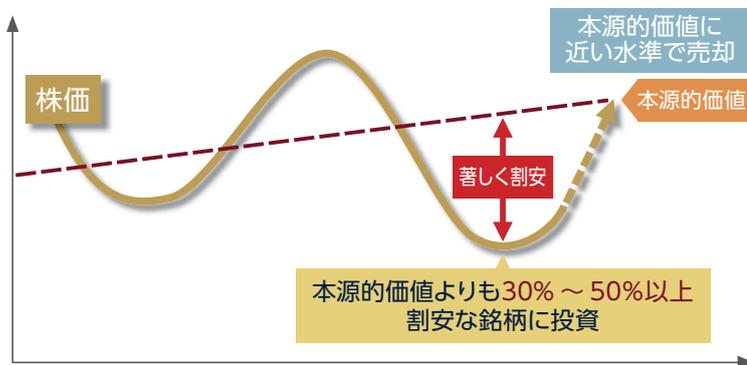
# ファースト・イーグル社の揺るぎない投資哲学

## 投資哲学 ① バリューストック投資

### ■ 本源的価値に基づく投資判断

- 「株価は、短期的には投資家の心理を反映するが、長期的には、その企業の本源的価値を反映する」という考えのもと、企業の本源的価値よりも30%～50%以上割安な水準で投資を行ない、株価が本源的価値に近づいた段階で売却を行ないます。
- 本源的価値の算出には、PER(株価収益率)、PBR(株価純資産倍率)等の伝統的なバリュエーション分析に加えて、企業本来の事業活動から生まれる「フリーキャッシュフロー」の分析をより重視し、これらから企業本来の収益力を探り出すことで決定します。

本源的価値と株価のイメージ



#### ◆ 本源的価値の算出 ◆

財務諸表を精査し、リサーチチームの独自の分析によって**企業本来の収益力**を探り出します。

PER分析

PBR分析

貸借対照表分析

フリーキャッシュフロー分析

など

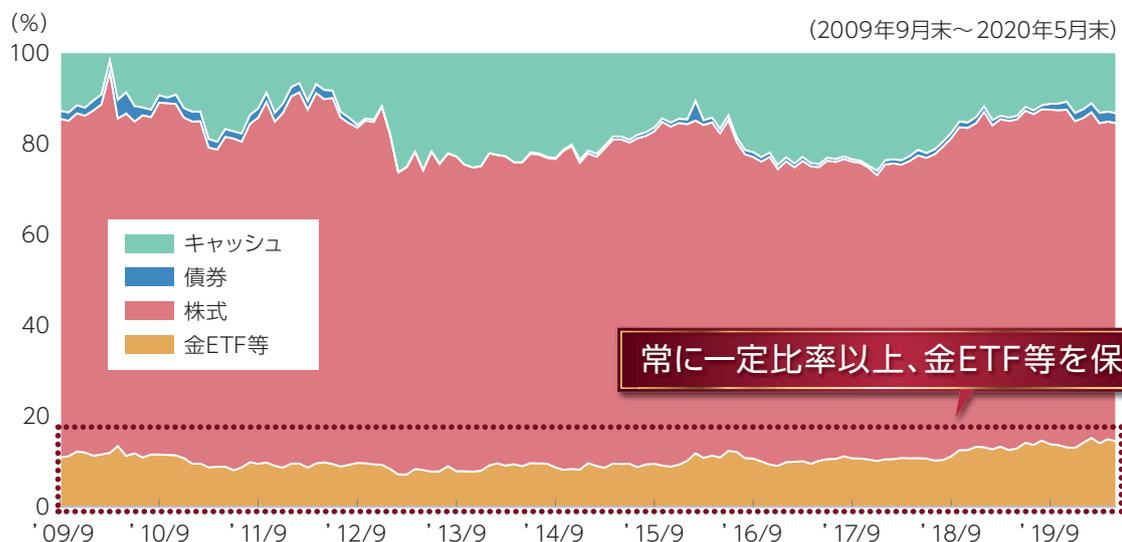
※上記は、実際の株価、企業価値の水準や変動を示唆・保証するものではありません。※上記の方針どおりに買付け、売却できることを示唆・保証するものではありません。※上記は、当ファンドの投資成果を示唆・保証するものではありません。

## 投資哲学 ② 資産の保全

### ■ 急激な市場変動に備える“金”

- ファースト・イーグル社はリスク・コントロールを目的として金ETF等に
- 金は、あらゆる資産が下落するような大きなショック時でも損失の一部

マスターファンドにおけるアロケーションの推移



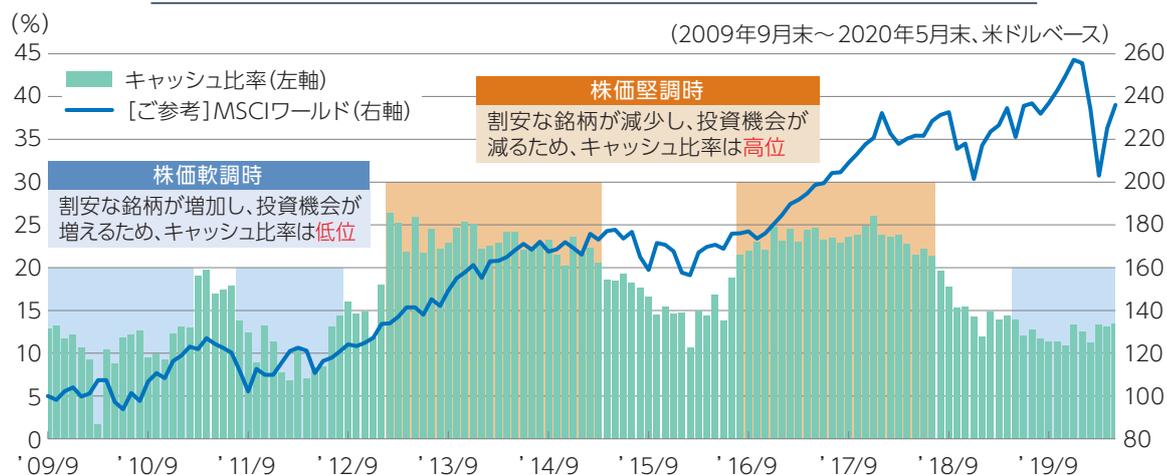
※2016年3月末以降のデータは現地前営業日のデータに基づきます。

※キャッシュとは、現金・その他の資産を指します。※使用した指数については、「当資料で使用した指数について」をご参照ください。  
 ※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

## 割高なものには“投資しない”

- バリューストック投資の観点から、市場に割安な銘柄が減少し投資機会が少ない局面では、株式そのものへの投資を控えます。
- 無理に株式に投資するのではなく、キャッシュ等で待機することで、優良な銘柄に十分に割安な水準で投資できるような局面の到来に備えます。

当ファンドの投資対象であるマスターファンドにおけるキャッシュ比率の推移

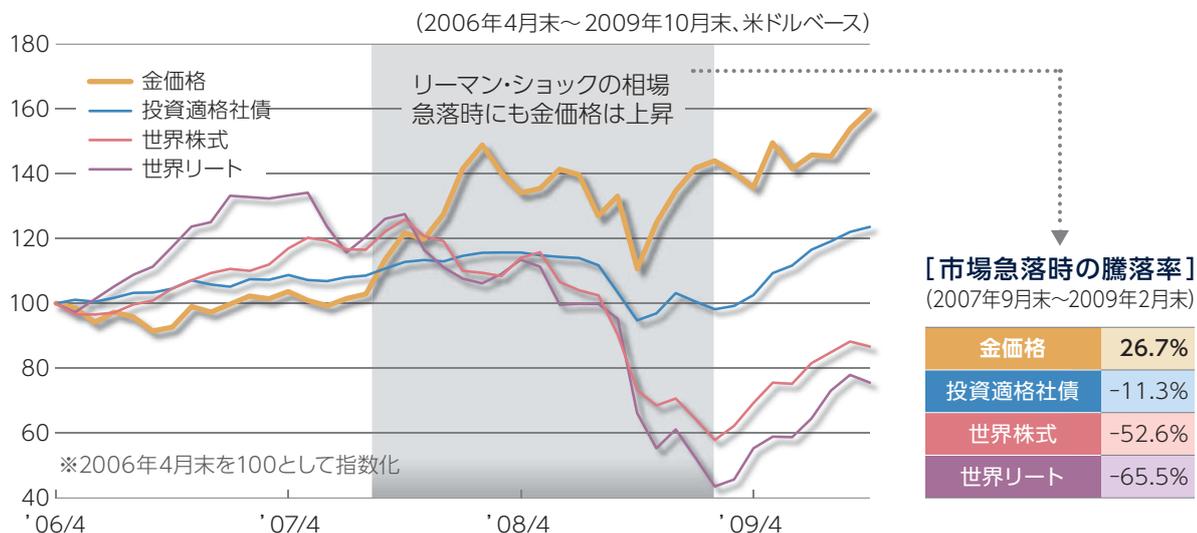


※MSCIワールドは配当込み、源泉税控除後、2009年9月末を100として指数化。

※2016年3月末以降のキャッシュ比率は現地前営業日のデータに基づきます。

投資します。 ※マスターファンドでは、金ETF、金関連株式に投資します(金現物は含まれません)。を補うことが期待できることから、不測の事態への備えとして投資を行いません。

金融危機時の主要資産のパフォーマンス



※金価格以外は配当込み。



# 揺るぎない投資哲学の実践による成果

- 市場で人気を集め魅力
- 過去においても、ファー

投資哲学の  
実践例

1

## “例外を設けない投資”（割高な水準で売却）～日本株バブル～

1988年、バリュー投資の観点からみて保有を継続できる銘柄が無くなったため、**すべての日本株を売却**

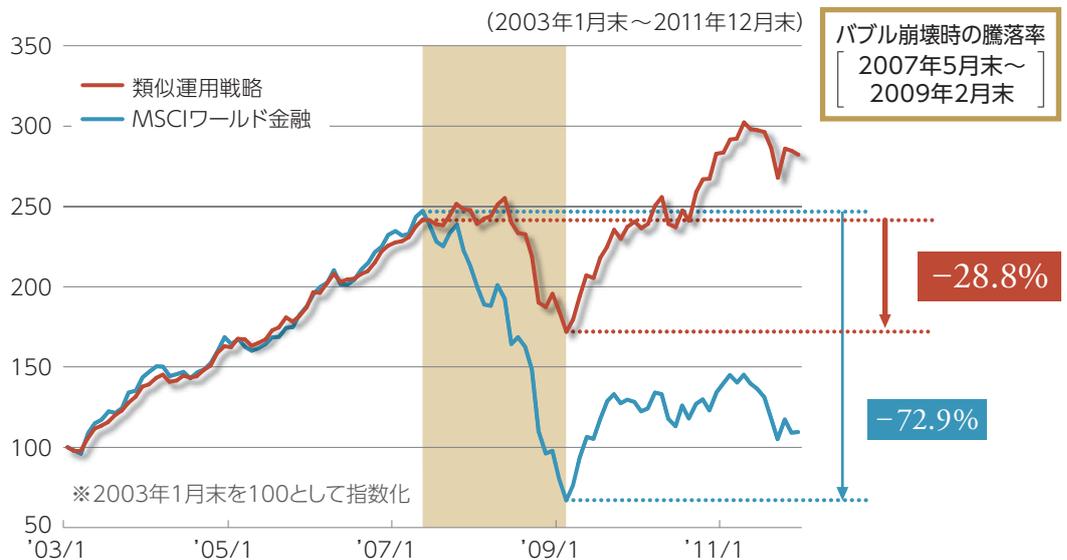


投資哲学の  
実践例

3

## “分からないものには手を出さない”～金融バブル～

2006年、さまざまなデリバティブ取引の結果、財務諸表の**複雑化の進んだ**銀行・証券会社等には**一切投資せず**



※類似運用戦略は諸費用控除後、米ドルベース。MSCIインデックスは配当込み、源泉税控除後、米ドルベース。※使用した指数については、「当資料で  
(注)類似運用戦略は、マスターファンドと同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、運用資産規模や投資制限(マスターファンドでは金現物  
実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

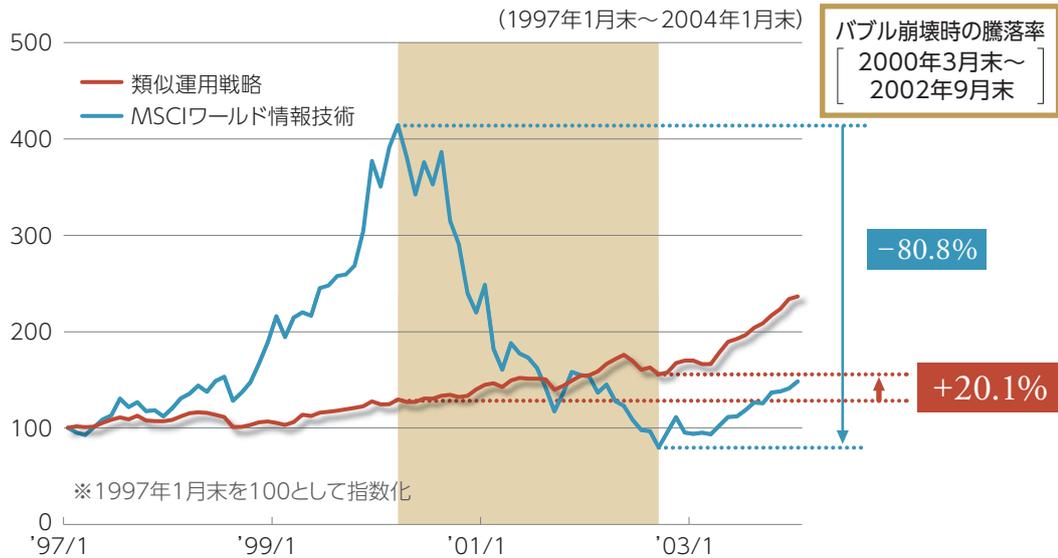
的に見える銘柄でも、納得のいく裏付けがなければ決して投資を行いません。  
 スト・イーグル社の投資哲学に対する「こだわり」がパフォーマンスとしてあらわれています。

投資哲学の  
実践例

2

➤ “例外を設けない投資” (割安でなければ投資しない) ～ITバブル～

1999年、IT株が人気を集める中でも、バリュー投資の観点からみて投資対象にはならないと判断し、一切投資せず



ファースト・イーグル社のこだわり

1990年代末、IT株は株価が大きく上昇し、市場全体がIT一色に染まっていました。しかし、類似運用戦略を運用するグローバル・バリュー・チームは投資哲学であるバリュー投資の観点から同セクターは**投資対象にはならないと判断し、投資を見送りました。**

当然、ファンドのパフォーマンスが劣後するなか、親会社、投資家などから同セクターへ投資するようさまざまな圧力がかけられましたが、グローバル・バリュー・チームは

**「顧客のお金の半分を失うより、顧客の半分を失う方がましだ」と断固拒否。**

これをきっかけにグローバル・バリュー・チームは、ファースト・イーグル社に移籍しました。

使用した指数について]をご参照ください。

(に投資しない等)、費用などが異なります。類似運用戦略は、あくまでも参考のために掲載したものであり、マスターファンドとは異なります。上記は過去の

## 為替ヘッジあり

### 基準価額・純資産総額の推移



2020年5月29日現在

基準価額	9,649円
純資産総額	331億円

### 分配の推移(1万口当たり、税引前)

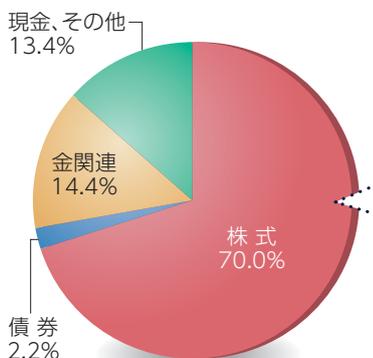
決算期(年/月)	分配金
第1期('16/11)	50円
第2期('17/5)	250円
第3期('17/11)	100円
第4期('18/5)～ 第6期('19/5)	0円
第7期('19/11)	150円
第8期('20/5)	0円
<b>設定来分配金合計額</b>	<b>550円</b>

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、実質的な一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・

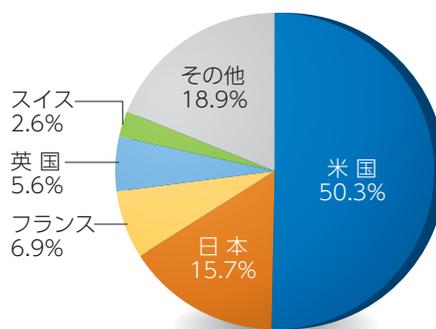
### ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンドの資産の状況

※下記データは、ファースト・イーグル・イン

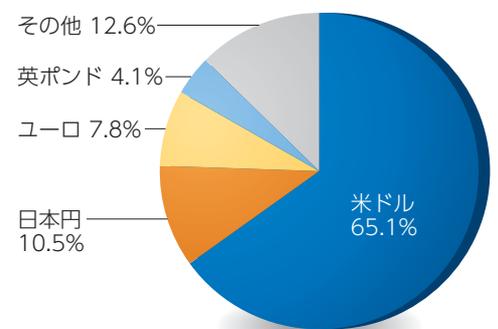
#### [ 資産別構成 ]



#### [ 国別構成(株式部分) ]



#### [ 通貨別構成 ]

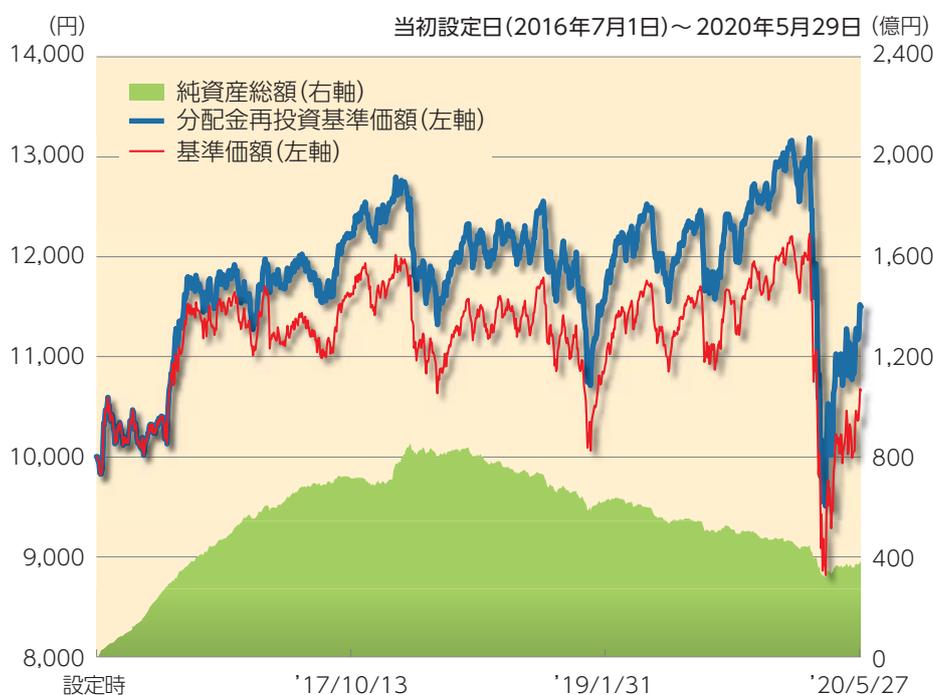


※比率は、マスターファンドの純資産総額に対するものです。※上記データは、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日のデータに基づきます。※国別  
※金関連は金ETFおよび金関連株式を指します。※業種名につきましては、ファースト・イーグル・インベストメント・マネージメントが決定しております。  
示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

# ヘッジなし)の運用状況 (基準日:2020年5月29日)

## 為替ヘッジなし

### 基準価額・純資産総額の推移



#### 2020年5月29日現在

基準価額	10,666円
純資産総額	379億円

#### 分配の推移(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期('16/11)	250円
第2期('17/5)	300円
第3期('17/11)	150円
第4期('18/5)～ 第6期('19/5)	0円
第7期('19/11)	150円
第8期('20/5)	0円
<b>設定来分配金合計額</b>	<b>850円</b>

運用管理費用(信託報酬)は控除しています(「ファンドの費用」をご覧ください)。※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ保証するものではありません。

ベストメント・マネージメントの提供するデータを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

### [組入上位10銘柄]

※組入銘柄数:137銘柄

銘柄名	業種名	コメント	比率
SPDR・ゴールド・シェア	素材	金の国際価格を連動対象とした米国籍の上場投資信託(ETF)	8.6%
オラクル	情報技術	企業の情報管理用ソフトを手がける米国のソフトウェアメーカー	2.6%
コムキャスト	コミュニケーションサービス	世界各地で事業を展開する米国のメディア・テレビ放送会社	2.1%
ファナック	資本財・サービス	工作機械向けNC(数値制御)装置や産業用ロボットで世界的シェアを誇る	2.0%
エクソンモービル	エネルギー	世界各地で石油および石油化学事業を展開する石油化学メーカー	2.0%
ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	生活必需品	紙巻たばこや葉巻、手巻きたばこなどを生産・販売しているグローバルなたばこ会社	1.8%
ダノン	生活必需品	食品加工会社。乳製品、飲料、離乳食、臨床・医療用栄養補助食品などを製造	1.6%
フィリップ・モリス・インターナショナル	生活必需品	マルボロなど日本でも馴染みのあるブランドを有しているグローバルなたばこ会社	1.5%
ニューモント	素材	鉱物資源の取得、探鉱、開発に従事。金、銅、銀、亜鉛、および鉛の生産・販売を手掛ける	1.5%
セコム	資本財・サービス	日本国内で各種警備サービスや在宅医療・介護サービスなどを提供	1.4%

構成比率は、株式部分の純資産総額に対するものです。※四捨五入の関係で構成比率の合計が一致しない、もしくは100%にならない場合があります。※銘柄名は大和アセットマネジメントが信頼できる情報を基に日本語表記したものであり、正式名称と異なる場合があります。※上記は過去の実績を(出所)ファースト・イーグル社、大和アセットマネジメント

## 基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金とは異なります。

### 《主な変動要因》 ※基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

価格変動リスク・信用リスク	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
 株価の変動	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。
 金価格の変動	金ETF(上場投資信託)の価格は、金価格の変動の影響を受けます。金価格は、様々な要因(需給関係の変化、貿易動向、為替レート、金利の変動、政治的・経済的事由および政策、技術発展等)に基づき変動します。
 為替変動リスク	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。特に、新興国の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。マスターファンドは米ドルでの運用を基本としているため、「 <b>為替ヘッジあり</b> 」は、米ドル売り/円買いの為替取引によって為替変動リスクの低減をめざしますが、マスターファンドは運用者の判断によって米ドル以外の通貨(円を含みます)を組入れることもあります。このため、当該米ドル以外の通貨が米ドルに対して下落した場合、基準価額が下落する要因となります。なお、米ドル売り/円買いの為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。「 <b>為替ヘッジなし</b> 」は、為替ヘッジを行なわないので、基準価額は、為替レートの変動の影響を直接受けます。
 カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。
 その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

## その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

## リスクの管理体制

- 委託会社では、取締役会が決定した運用リスク管理に関する基本方針に基づき、運用本部から独立した部署および会議体が直接的または間接的に運用本部へのモニタリング・監視を通し、運用リスクの管理を行ないます。

### 当資料で使用した指数について

投資適格社債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合社債インデックス、世界株式：MSCIワールド・インデックス、世界リート：S&P グローバルREIT指数を使用。

## お申込みメモ(※三菱UFJ銀行でお申込みの場合)

購入単位	分配金再投資コース(累積投資コース):1万円以上1円単位 購入単位には購入時手数料(税込)が含まれます。再投資される分配金については、1口単位とします。 投資信託口座を通じたお申込みの場合は上記以外の購入単位でのお取り扱いもごございます。くわしくは、三菱UFJ銀行のホームページをご覧ください。
購入・換金価額	購入および換金申込受付日の翌営業日の基準価額(1万円当たり)
換金単位	投資信託口座:1円以上1円単位、または1口以上1口単位、または全部。金融商品仲介口座:1口以上1口単位、または全部。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	① ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行またはケイマンの銀行のいずれかの休業日 ② ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行またはケイマンの銀行のいずれかの休業日(土曜日および日曜日を除きます)の前営業日(当初設定日を除きます) ③ ①、②のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日 (注)申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
申込締切時間	午後3時まで(販売会社所定の事務手続きが完了したもの)
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情(投資対象国における非常事態による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等)が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入の申込みを取消すことがあります。
スイッチング(乗換え)	「為替ヘッジあり」および「為替ヘッジなし」の間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。
信託期間	2016年7月1日から2026年5月19日まで ※受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長できます。
繰上償還	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要投資対象とする組入外国投資信託が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、各ファンドの信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させます。</li> <li>次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合</li> <li>信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき</li> <li>やむを得ない事情が発生したとき</li> </ul> </li> </ul>
決算日	毎年5月19日および11月19日(休業日の場合翌営業日)
収益分配	年2回の決算時に分配を行ないます。 収益分配金は税金を差引いた後、決算日の基準価額により自動的に無手数料で全額再投資されます。 ※分配金を再投資せず、お客さまの指定口座にご入金するお取り扱いを希望される場合は、定期引出契約をお申込みください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

## ファンドの費用(※三菱UFJ銀行でお申込みの場合)※消費税率10%の場合

### お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入代金に応じて、右記に定める手数料率を購入金額に乗じて得た額とします。 購入時手数料(税込)は、購入代金から差引かれます。 *購入代金=購入金額(購入価額×購入口数)+購入時手数料(税込) ※手数料率は変更となる場合があります。 ※インターネット取引でご購入の場合は、右記手数料率から10%優遇
信託財産留保額	ありません。
スイッチング(乗換え)手数料	ありません。

### 購入時手数料率

購入代金*	手数料率(税込)
1億円未満	3.30%
1億円以上5億円未満	1.65%
5億円以上10億円未満	1.10%
10億円以上	0.55%

### お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して年率1.0725%(税込)を乗じて得た額とします。
投資対象とする投資信託証券の運用管理費用等	年率0.80%(注)
実質的に負担する運用管理費用	年率1.8725%(税込)程度(注) ただし、投資対象ファンドの運用管理費用等に下限金額が設定されているため純資産総額によって、実質的な運用管理費用が年率1.8725%(税込)程度を上回ることがあります。
その他の費用・手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保有する場合の費用等を信託財産でご負担いただけます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

(注)投資対象とする投資信託証券において、別途管理事務代行会社・資産保管会社にかかる費用があります。当該費用については、残高等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

[受託会社] ファンドの財産の保管および管理を行なう者

**三井住友信託銀行株式会社**

[委託会社] ファンドの運用の指図を行なう者

**大和アセットマネジメント株式会社**

お電話によるお問い合わせ先 フリーダイヤル ☎ 0120-106212(営業日の9:00~17:00)

委託会社のホームページアドレス <https://www.daiwa-am.co.jp/>

[販売会社] 購入・換金の取り扱い等を行なう者

• 投資信託口座を通じたお取り扱いの場合

**株式会社三菱UFJ銀行**

• 金融商品仲介口座を通じたお取り扱いの場合

**三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社**

(金融商品仲介業務等を行なう登録金融機関:株式会社三菱UFJ銀行)



#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は大和アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。■分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合があります。

(2020.8)